勝連城周辺の文化財

南風原古島（はえばるふるじま）遺跡

かつて繁栄していた南風原古島の集落は、勝連城用達の港の隣で発展しました。経済的な衰退が続いた後、元の村は 1726 年に廃村になり、城の北の内陸に移動しました。この土地で新しい住宅開発が計画されたことに伴って 1986 年に行われた発掘調査では、多くの遺跡・遺物が発見されました。その中には、石垣、石の道、陶器の破片、その他の 13 世紀から 18 世紀の遺物がありました。

マーカーガー

この神聖な天然の井泉は、元島原の村の中心にありました。ここに行くには大きな天然の岩壁の下にある数メートルほど下方に続く階段を通ります。城への訪問者は、ここで手足を清め、城に詣でる意向を神に告げました。現在は市街地に囲まれています、今でも崇拝に使用されています。

浜川（はんがー）ガー

この神聖な天然の泉は、元島原の村が存在していた時代から残っています。美人として名高かった真鍋樽（マナダルー）という女性は、この泉で髪を洗っていました。彼女の髪は身長 1.5 倍の長さがあったので、洗うには長い棒にかけておく必要があったそうです。新年には、近隣の古い村々の門中（同一の父系の先祖を持つ集団）が祈りを捧げます。

アコージガー

かつて、この地面から直接水が湧き出る聖なる泉の前を、勝連城へ続く道が通っていました。地位の低い人々がこの泉を使用していました。

按司墓

亀の甲羅の形をした墓、故人の骨を納める大きな陶器の壺の使用、野外に遺体をさらす風習など、沖縄には多くの埋葬に関わる慣習があります。崖の岩壁に苦心して掘られたこの 4 つの墓は、女性司祭を含む著名な村人のために作られました。現在は、上の道路から狭い道とコンクリートの階段を通过这个の墓を訪れることができます。階段出入口から順に：

1. 門口番の御墓
2. 御門番の御墓（うじょうばんぬうはか）
3. ノロ殿内（ぬんどんち）クサイの御墓

4. 儀保（ぎぼ）クサイの御墓

アガリガー

南風原（はえばる）村は、1726年に沿岸地域から移転しました。当時は、特別な許可を得ずに個人が井戸を掘ることは禁止されていたため、3つの主要な場所に共有井戸が建設されました。アガリガーという井戸は村の東部に水を供給する井戸で、かつて、この水は新生児の顔につけるために汲まれました。現在では、日常生活の水源としては使用されていません。

マンナカガー

マンナカガーという名前は「真ん中の井戸」を意味します。この井戸は南風原村の中心部に水を供給しました。形状やつくりがアガリガーとイリーガーと呼ばれる井戸とよく似ており、これらは全て1726年に村が移動してきた時作られたものと考えられています。現在では、マンナカガーは日常の生活用水の水源としては使用されていません。

イリーガー

イリーガーは、南風原村の西部の井戸です。形状やつくりがアガリガーとマンナカガーと呼ばれる井戸とよく似ており、これらは全て1726年に村が移動してきた時作られたものと考えられています。現在ではイリーガーは日常の生活用水の水源としては使用されていません。

南風原の村獅子

獅子は、神話に登場するライオンの姿を表したお守りで、邪悪なものからの影響を防いでいます。1726年に南風原村が勝連城の南から移動してきたとき、新しい村の四隅を印すため、それぞれの角に石の獅子が置かれました。そのうちの二体は現存しており、数世紀の雨風に耐えて歴史の証人となりました。